

A light gray world map is centered in the background of the slide.A decorative graphic consisting of a vertical black line and a horizontal black line intersecting at the center. The top-left quadrant is blue, the top-right is red, the bottom-left is yellow, and the bottom-right is white.

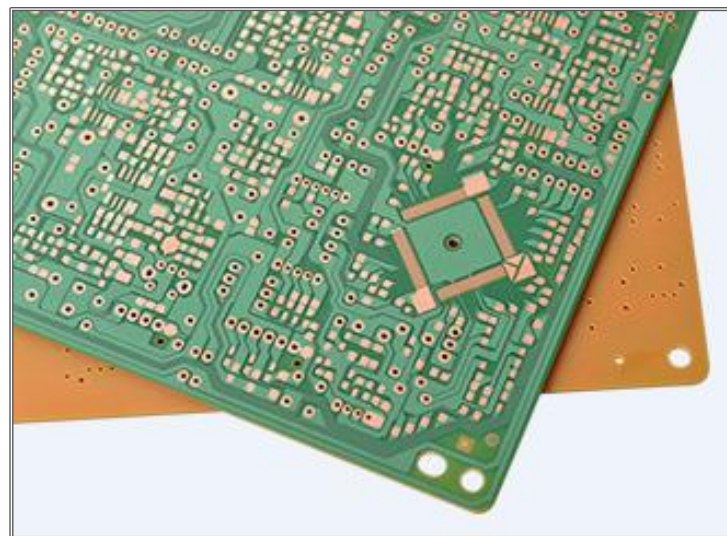
# 2022年3月期 決算説明資料

株式会社 京写

証券コード：6837

2022年 5月 27日

- I. 2022年3月期 決算概要
- II. 2023年3月期 業績予想
- III. 中期経営計画について
- IV. サステナビリティへの取組み
- V. 参考 会社概要



A light gray world map is centered in the background of the slide.A decorative graphic consisting of a vertical black line and a horizontal black line intersecting at the center. The intersection is surrounded by four colored squares: blue (top-left), red (top-right), yellow (bottom-left), and yellow (bottom-right).

# I. 2022年3月期 決算概要

# 2022年3月期 決算業績サマリー



■ 国内外共に大幅増収と経営体質強化により増益

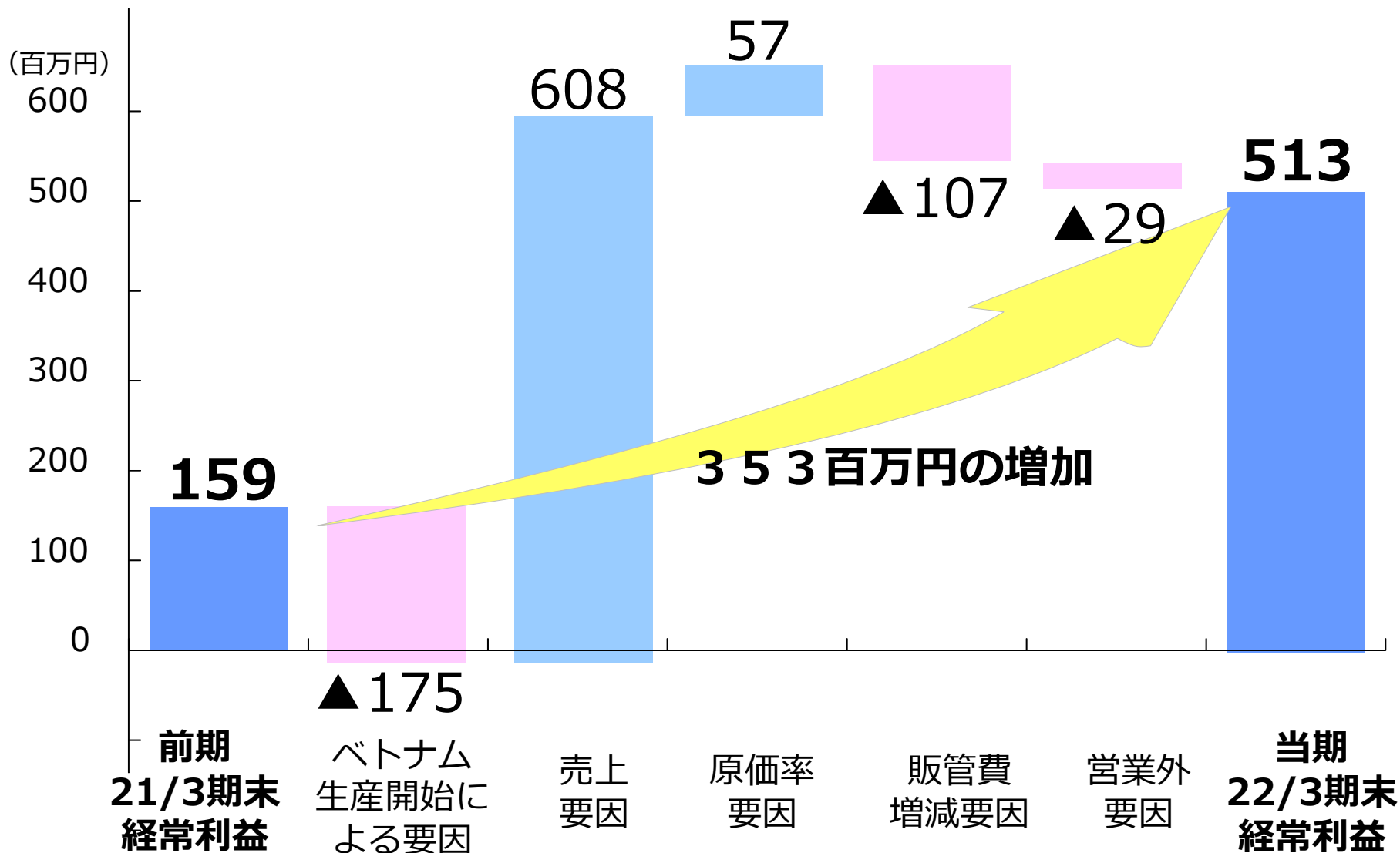
(単位：百万円)

連結	前期実績 (2021年3月期)	当期実績 (2022年3月期)	増減額	前期比
売上高	<b>17,334</b>	<b>21,337</b>	4,002	123.1%
営業利益	<b>98</b>	<b>478</b>	380	485.0%
経常利益	<b>159</b>	<b>513</b>	353	321.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ <b>135</b>	<b>289</b>	424	—
営業利益率	<b>0.6%</b>	<b>2.2%</b>		
為替レート KIC (US\$)	106.06	112.38	6.32	106.0%
KVC (US\$)	106.82	109.80	2.98	102.8%
KHC (HK\$)	13.77	14.13	0.36	102.6%

# 経常利益の増減前期比較



■ベトナム固定費増加(減価償却費等)も、大幅増収と経営体質強化で増益



# 地域別セグメント業績



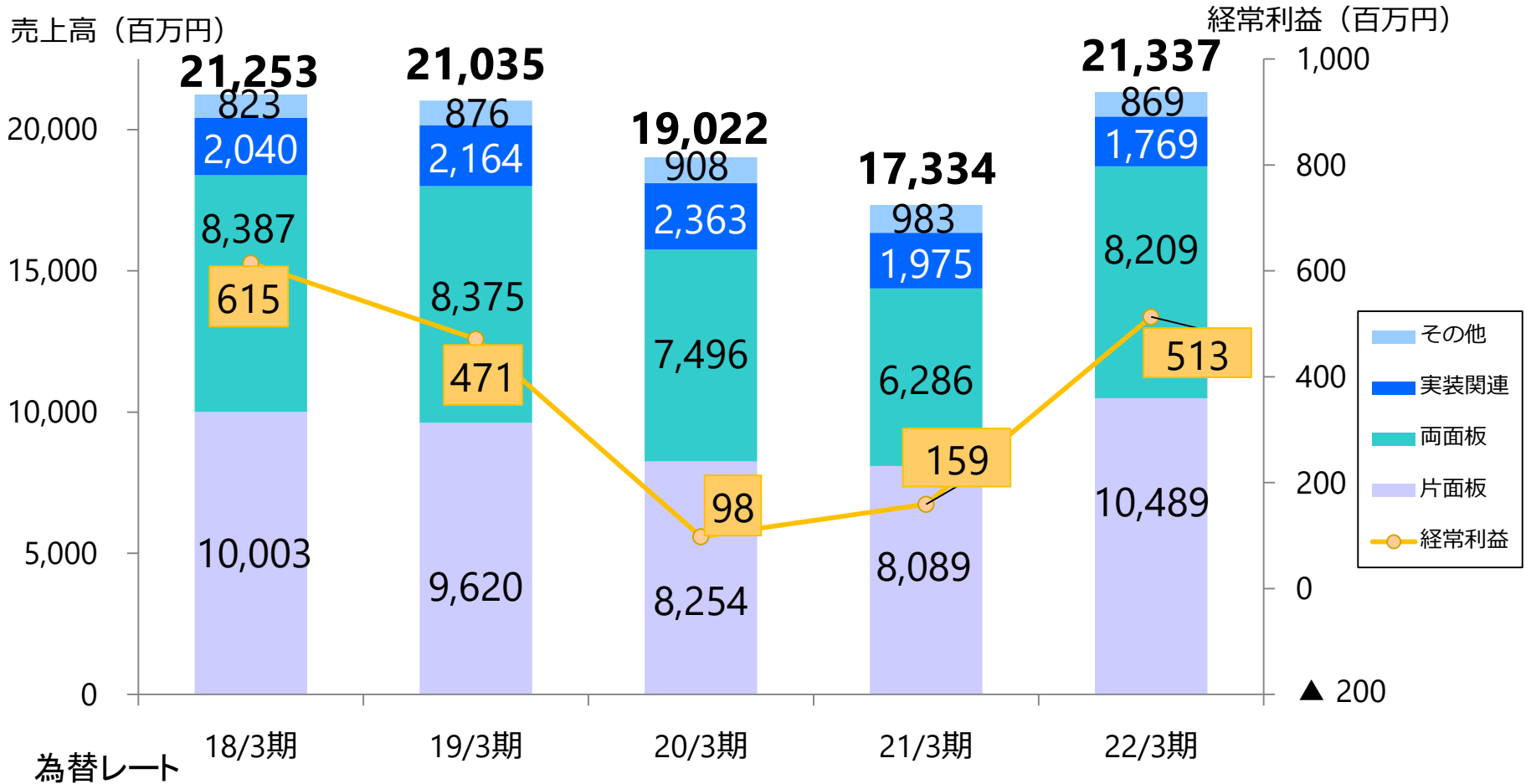
- 日本 : 基板は好調で増収増益、実装関連は低迷
- 中国 : 受注好調で大幅増収、増益
- インドネシア : 受注好調で大幅増収、黒字化
- ベトナム : 販売開始、減価償却費等の固定費増加で赤字増

拠点		前期実績 (2021年3月期)		当期実績 (2022年3月期)		増減	
		百万円	利益率	百万円	利益率	百万円	率
日本	売上高	<b>9,042</b>		<b>9,647</b>		605	7%
	営業利益	△ <b>59</b>	—	<b>239</b>	2.5%	298	—
中国	売上高	<b>8,582</b>		<b>11,403</b>		2,821	33%
	営業利益	<b>473</b>	5.5%	<b>644</b>	5.6%	170	36%
インドネシア	売上高	<b>1,472</b>		<b>2,034</b>		561	38%
	営業利益	△ <b>81</b>	—	<b>14</b>	0.7%	95	—
メキシコ	売上高	<b>66</b>		<b>85</b>		19	29%
	営業利益	△ <b>10</b>	—	<b>5</b>	7.1%	16	—
ベトナム	売上高	—		<b>588</b>		588	—
	営業利益	△ <b>244</b>	—	△ <b>422</b>	—	△ 177	—

# 業績推移



■ 基板売上はコロナ前水準に回復(片面板過去最高)、実装関連は受注低調



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
KIC : US\$	110.85	110.91	108.74	106.06	112.38
KVC: US\$	—	—	109.05	106.82	109.80
KHC: HK\$	14.40	14.09	13.92	13.77	14.13

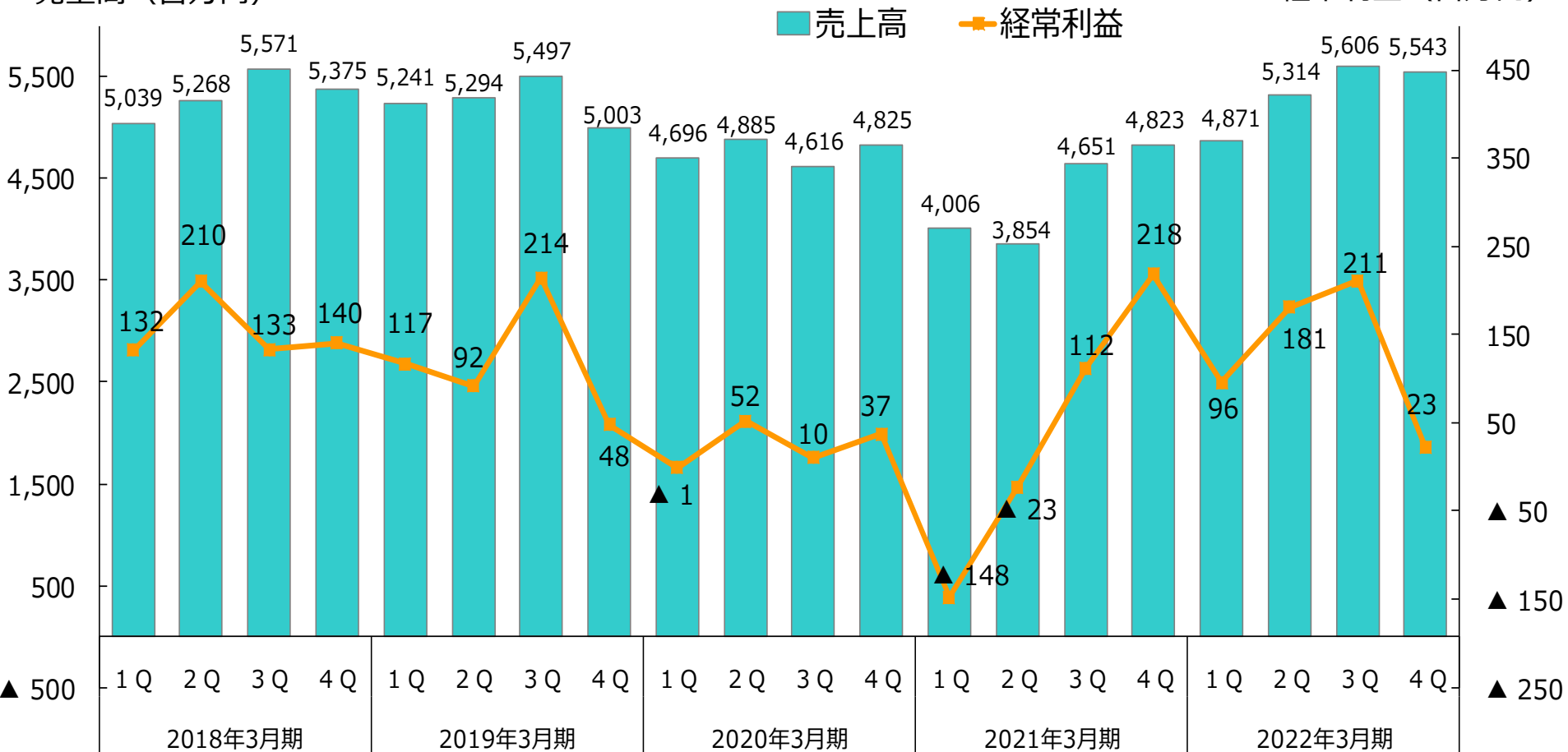
※両面板に多層板と銀ルーホール基板を含む

# 四半期毎の業績推移

■ 3Q比減収、材料費等原価率上昇により減益

売上高 (百万円)

経常利益 (百万円)

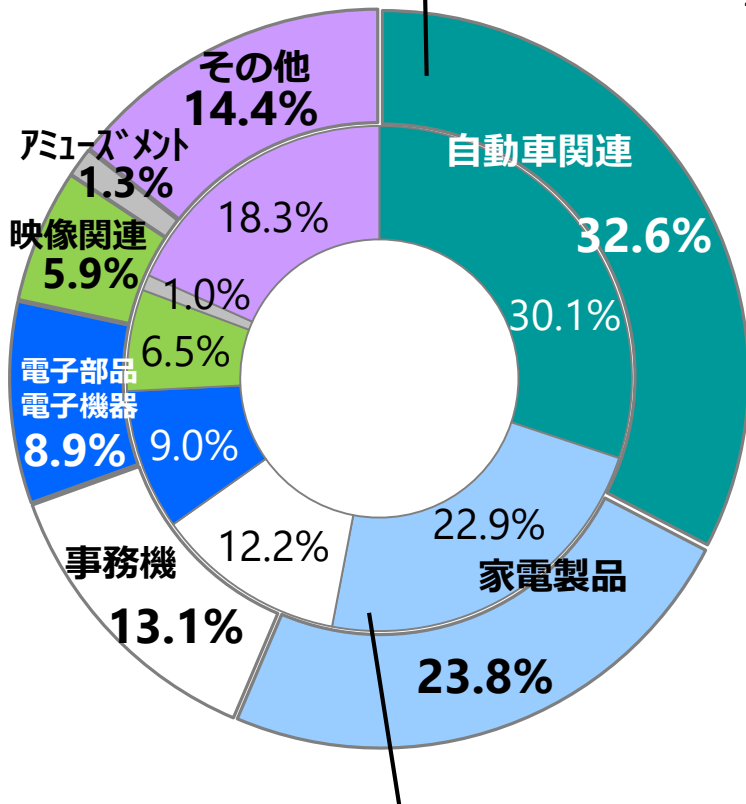




# 用途別売上高

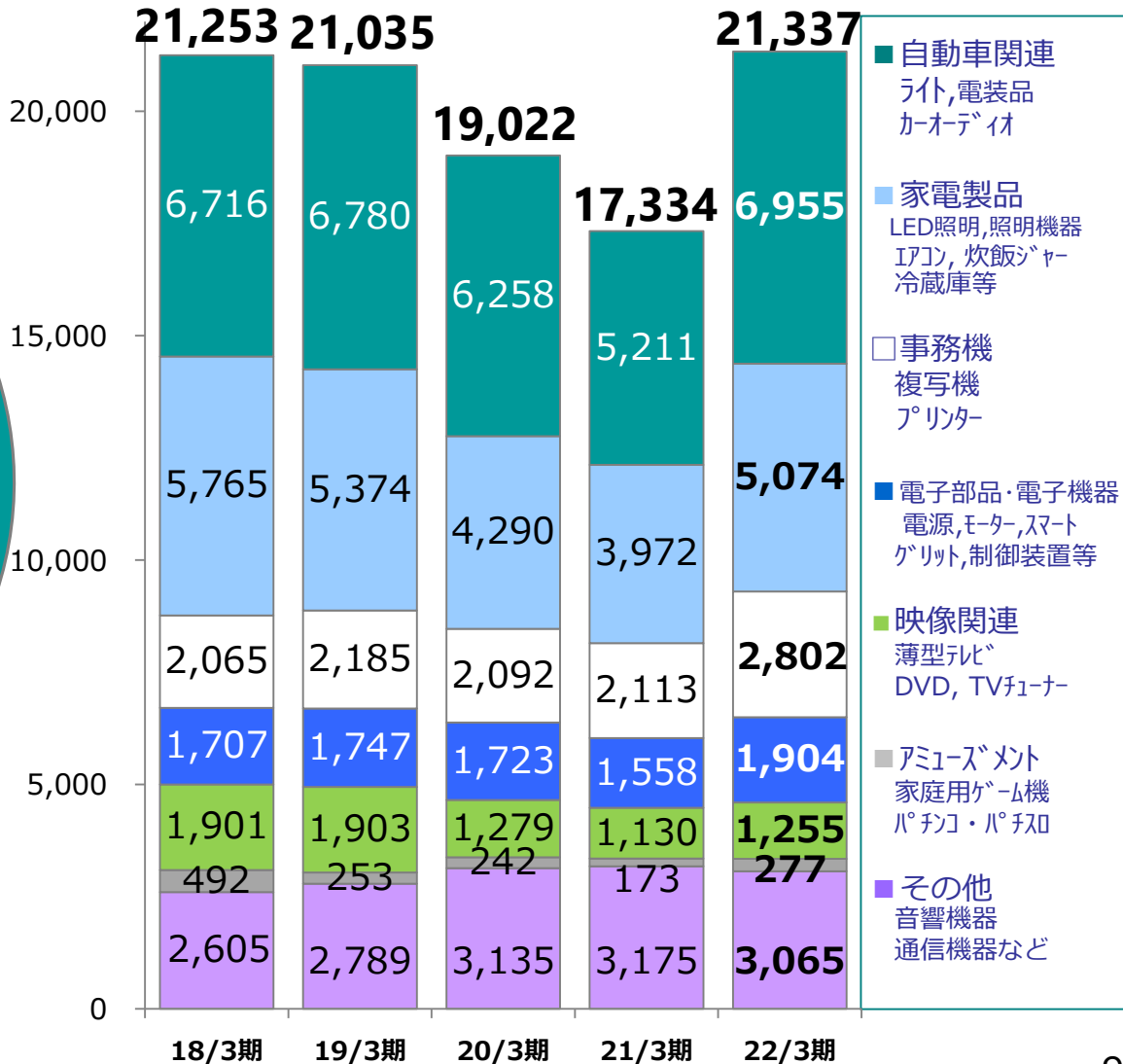
■ 上位3用途の受注好調、自動車関連・事務機は過去最高

外：22年3月期（当期）



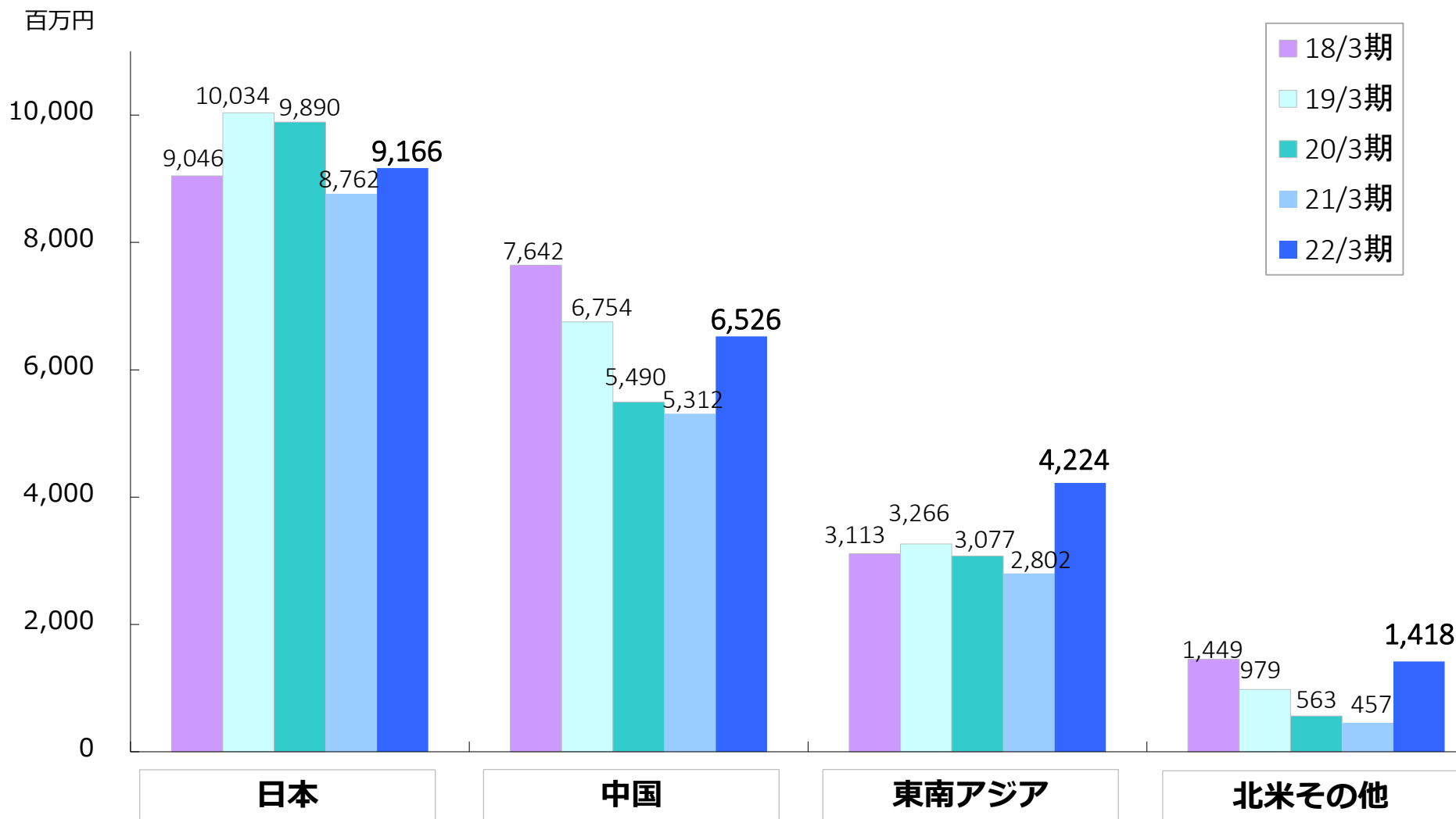
内：21年3月期（前期）

百万円



# 販売地域別売上高推移

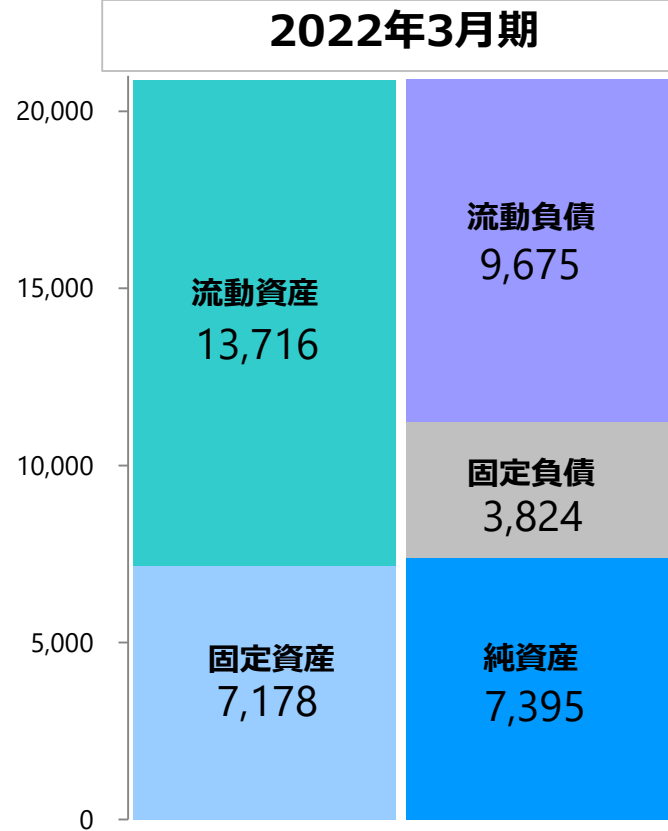
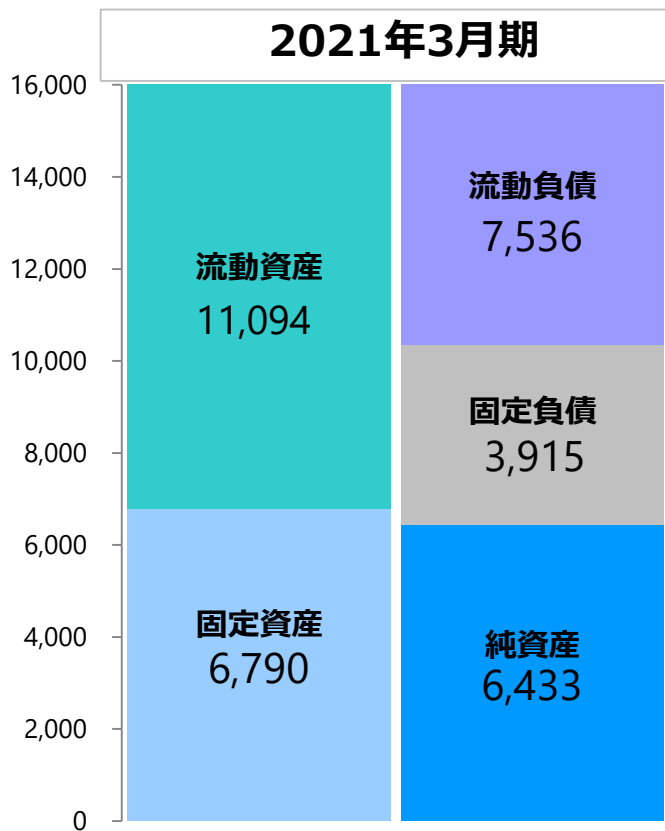
■ 前期比海外で売上増加（海外比率上昇49.5%→57%）



# 貸借対照表

## ■ 物流の混乱に伴い安定供給・調達で在庫増

(単位：百万円)



**総資産 17,885**

**総資産 20,894**

経営指標	2021年3月期	
流動比率	147.2%	2021年3月期 為替レート KIC: US\$110.71円 KVC: US\$103.50円 KHC: HK\$ 13.35円
有利子負債依存度	35.9%	
自己資本比率	34.8%	

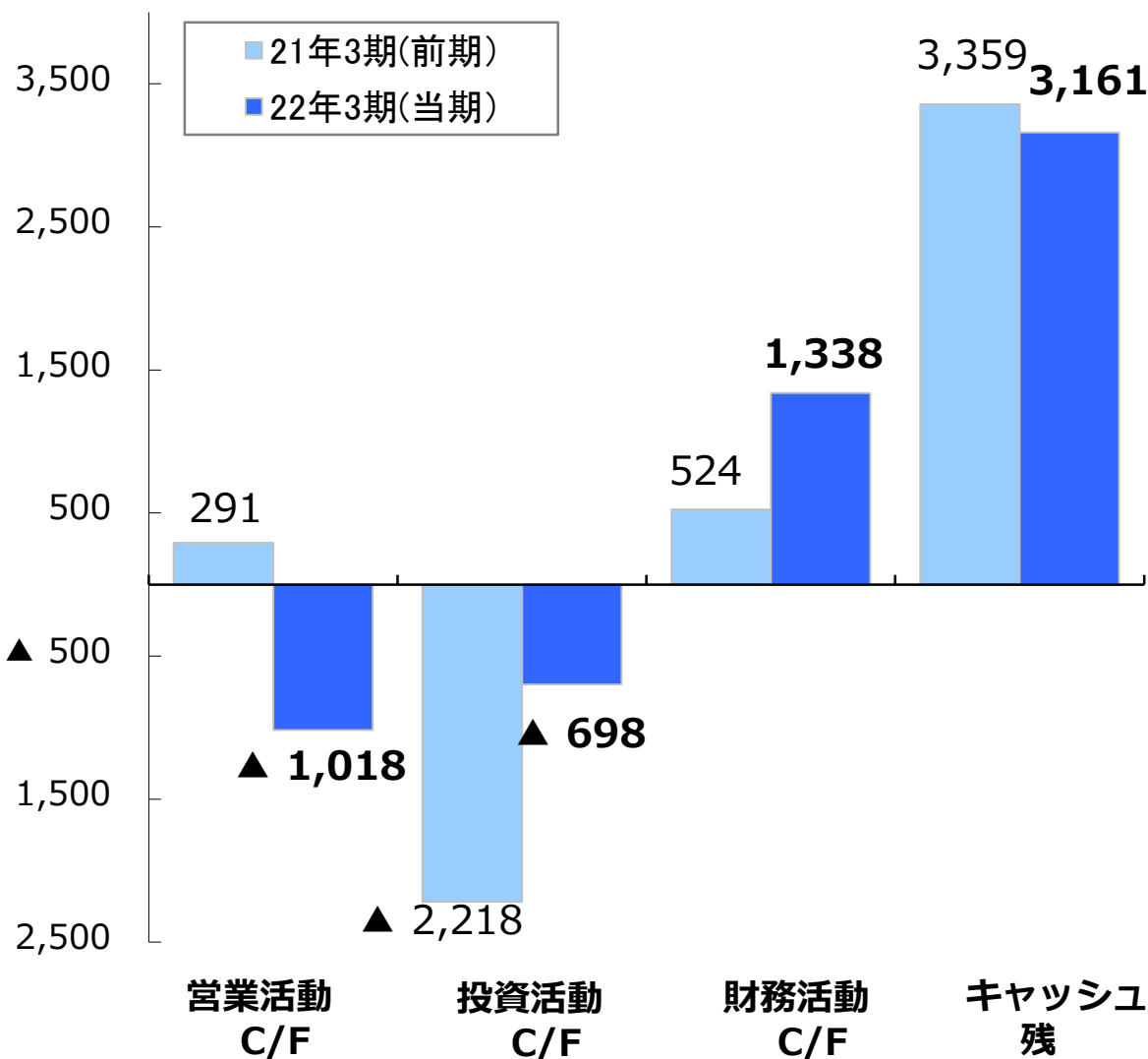
経営指標	2022年3月期	
流動比率	141.8%	2022年3月期 為替レート KIC: US\$122.39円 KVC: US\$115.02円 KHC: HK\$ 14.75円
有利子負債依存度	39.7%	
自己資本比率	34.4%	

# キャッシュ・フロー計算書



■ 営業活動C/Fは物流の混乱に伴い安定供給・調達で在庫増

百万円



## <特記事項>

**営業活動C/F**  $\Delta$ 1,018百万円

税引前利益	476百万円
減価償却費	850百万円
売上債権の増加	$\Delta$ 103百万円
棚卸資産の増加	$\Delta$ 1,778百万円
仕入債務の減少	$\Delta$ 173百万円
法人税等の支払	$\Delta$ 230百万円

**投資活動C/F**  $\Delta$ 698百万円

固定資産等の取得	$\Delta$ 596百万円
国内・海外生産設備等	
資本提携先株式取得	$\Delta$ 110百万円

**財務活動C/F** 1,338百万円

短期借入金純増額	1,437百万円
長期借入金純増額	$\Delta$ 41百万円
リース債務返済	$\Delta$ 57百万円

A light gray world map is centered in the background of the slide.A decorative graphic consisting of a vertical black line and a horizontal black line intersecting at the center. The top-left quadrant is blue, the top-right is white, the bottom-left is red, and the bottom-right is yellow.

## Ⅱ. 2023年3月期 業績予想

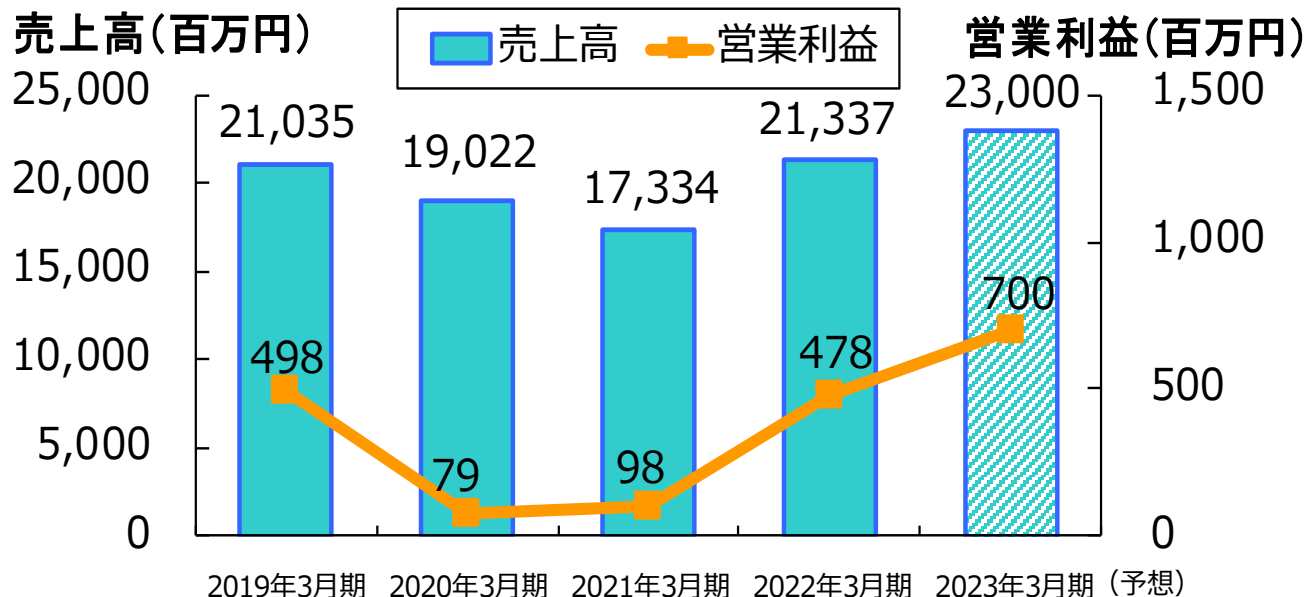
# 2023年3月期 業績予想

(単位：百万円)

連結	通期業績予想 (2023年3月期)		(参考)
	通期	前期比	前期実績
売上高	<b>23,000</b>	107.8%	21,337
営業利益	<b>700</b>	146.2%	478
経常利益	<b>630</b>	122.7%	513
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>360</b>	124.5%	289
配当予想(円)	6.00	1.00	5.00

## ■ 事業環境

- ・半導体不足による自動車減産や物流の混乱の継続、資源高、急激な為替変動など世界経済は先行き不透明
- ・早期にベトナム拠点の増産体制を構築
- ・新規顧客開拓、業務効率化による競争力と収益力強化



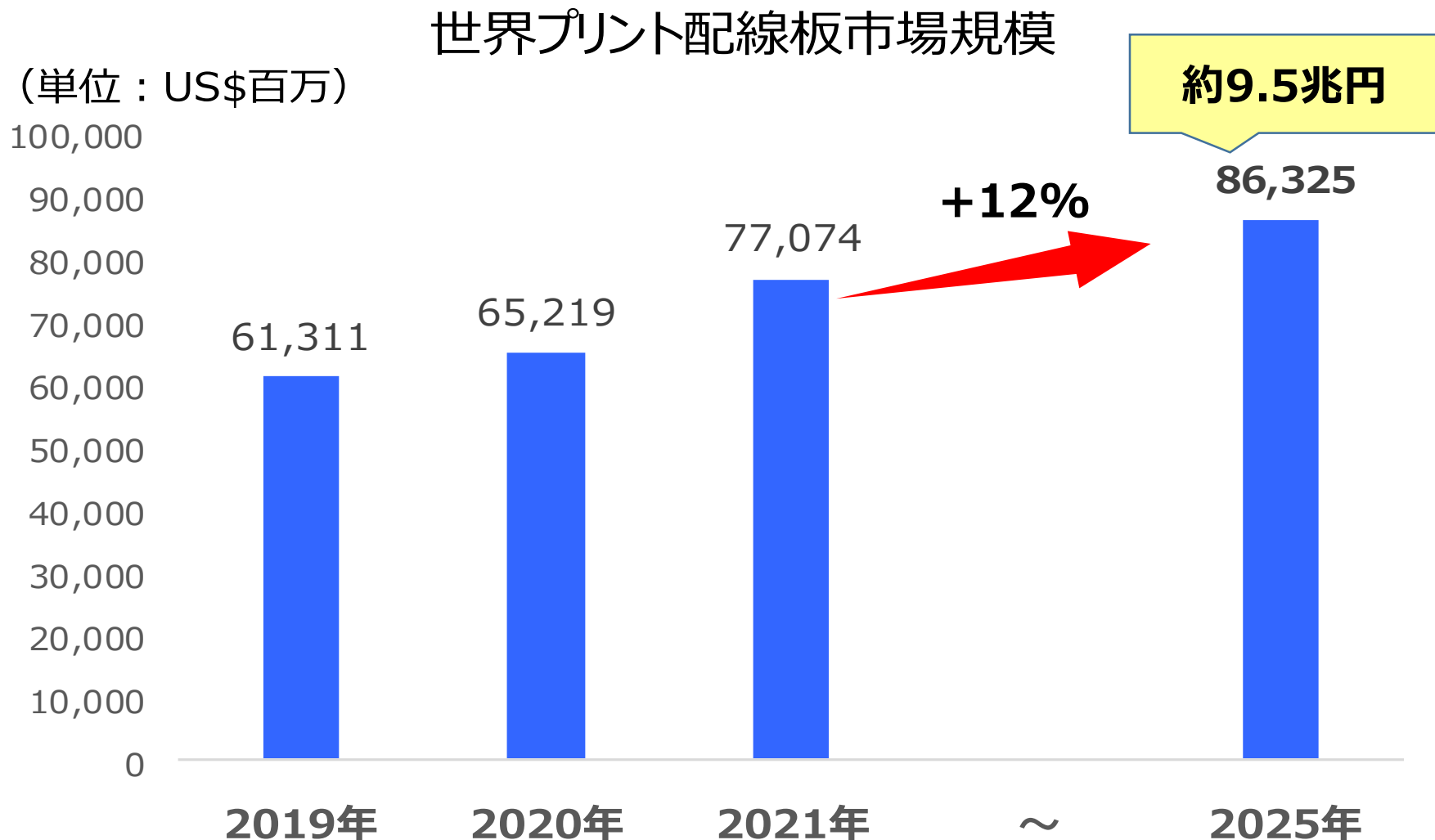
A faint, light gray world map is visible in the background of the slide.A decorative graphic consisting of a black crosshair with four colored squares (blue, red, yellow, and white) at the intersections, positioned to the left of the main text.

## Ⅲ. 中期経営計画について

2022年3月期～2026年3月期（5年計画）

# プリント配線板の市場動向（世界市場）

## ■ 2021年以降も世界のプリント配線板需要は拡大の見込み





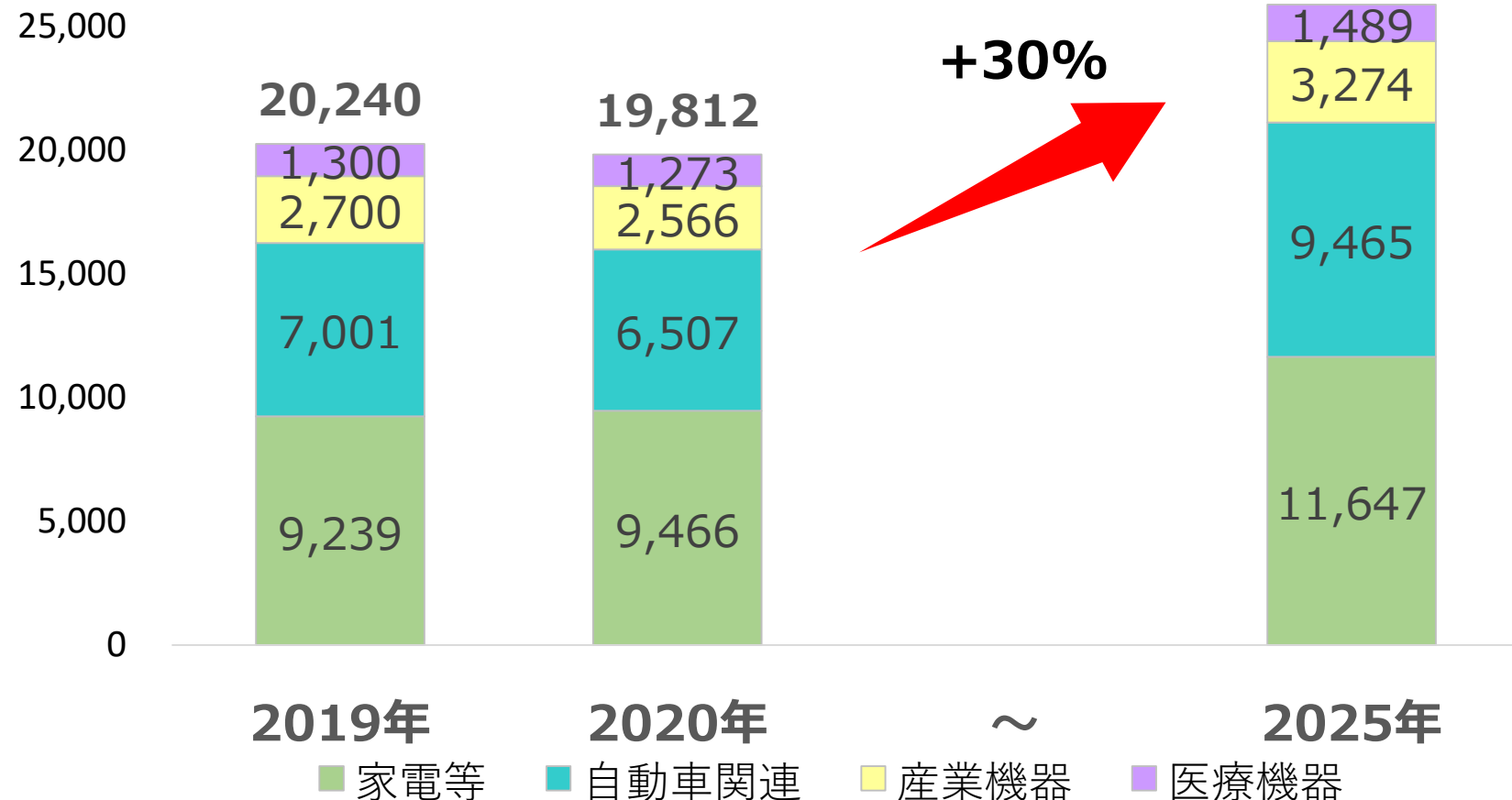
# 用途別のプリント配線板市場動向（世界市場）

## ■ 京写がターゲットとする車載、家電、産業機器などで需要拡大

約2.8兆円

(単位：US\$百万)

### 用途別需要予測



# プリント配線板業界での京写のポジション

- 京写は強みを活かせる事業領域に特化し、競争優位を発揮  
同業他社は撤退や多層板以上にシフトし、競合は減少

(片面板は家電等の底堅い需要があり、両面板は自動車、産機向けで需要増)

プリント配線板の種類	京写 生産拠点	用途	参入企業
パッケージ ビルドアップ	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体(パッケージ基板)</li> <li>・通信機器(スマートフォン)</li> <li>・精密機器(デジタルカメラ)</li> </ul>	イビデン、新光電気工業 メイコー、CMK、京セラ 台湾系、韓国系、中華系多数
多層板	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン(HDD、ネットワーク機器等)</li> <li>・自動車(エンジンコントローラ等)</li> </ul>	メイコー、CMK、キョウデン シライ電子、台湾系、韓国系、 中華系多数
両面板	日本 中国 ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車(ライト、インパネ等)</li> <li>・アミューズメント機器(ゲーム機等)</li> <li>・電子部品(センサー、医療機器等)</li> <li>・産業機器 (FA機器、ロボット等)</li> </ul>	<b>京写</b> 、シライ電子(日本、中国) キョウデン (日本、タイ) 台湾系、中華系
銀ペースト 両面板	中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーオーディオ</li> <li>・事務機(OA端末)</li> </ul>	<b>京写</b> 、北陸電工
金属ベース	日本、中国 インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子部品(モーター、電源部品等)</li> </ul>	<b>京写</b> 、日本発条、中華系
片面板	日本 中国 インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家電製品 (LED照明、エアコン、炊飯器等)</li> <li>・事務機(複写機、プリンター)</li> </ul>	<b>京写</b> 、日系未上場企業 中華系

京写グループの事業領域

## 経営ビジョン

一流になる

## スローガン

Build Trust

## 基本戦略

企業間連携を最大活用し、独自技術に磨きをかけ  
グローバルニッチトップメーカーになる

# ①グローバル生産・販売戦略

主旨

グローバル供給体制によるソリューションの提供

市場動向

・サプライチェーン分散化の加速 ・ASEAN(ベトナム)の成長 ・自動車電装化、EV化の進展 ・再生可能エネルギー、インフラ市場拡大、5Gの普及

重点施策

## ①最適な供給網の再構築

- ・ベトナム工場第1期フル稼働
- ・両面事業・営業拠点の再編

## ②車載・再生可能エネルギー分野向け

### 両面・金属基板事業の拡大

- ・技術提案型営業の推進

## ③片面シェア拡大による業界最大の利益確保

- ・圧倒的低コストでのものづくり

## ④基板・実装・治具の販売シナジー最大化

- ・グループ内連携による拡販
- ・外資系メーカーへの拡販

## 2026年3月期目標

製品別売上 (300億円)

両面板・金属基板の拡大

単位：億円

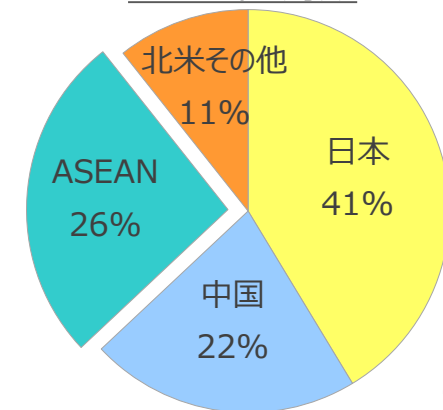
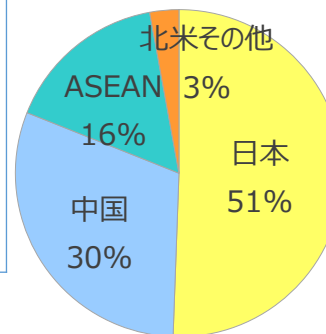


地域別売上割合

ASEAN(ベトナム)地域拡大

2021年3月期

2026年3月期



# トピックス(両面板製造拠点の海外展開)

## ■京写ベトナム(Kyosha Vietnam Co., Ltd)の概要

- ・ 設立年月：2019年1月25日
- ・ 敷地面積：35,044m<sup>2</sup>
- ・ 工場面積：12,934m<sup>2</sup>(第1期)
- ・ 工場完成：2020年3月
- ・ 生産品目：両面プリント配線板
- ・ 生産能力：40,000m<sup>2</sup>/月(第1期)
- ・ 総投資額：38億円(第1期2ライン体制)



工場外観(正面)

## ■稼働進捗状況

- ・ 2021年1月 販売開始  
生産能力 20,000m<sup>2</sup>/月(1ライン生産体制)  
現在自動車向け製品を中心に生産  
投資額：26.5億円
- ・ **第2生産ライン導入準備開始(年内稼働予定)**  
生産能力 40,000m<sup>2</sup>/月に拡大  
投資額：13億円(予定)

## ■ジェトロ海外サプライチェーン多元化支援事業に採択

ベトナムでの両面プリント配線板の増産計画が日系企業のサプライチェーン強靱化に寄与する事業と認定(2020年12月)



工場外観(全景)

## ② 企業間連携戦略

主旨

戦略的ネットワークによる競争優位の獲得

市場動向

・自動車電装化・EV化の進展、再生可能エネルギーのイノベーション等、  
技術高度化・ニーズ多様化の加速

重点施策

### ① 顧客・仕入先との連携

- ・EMSメーカー・商社との連携マーケティングによる製品開発、販路拡大
- ・材料メーカーとのタイアップによる新商品開発

### ② 同業他社との相互補完関係の構築

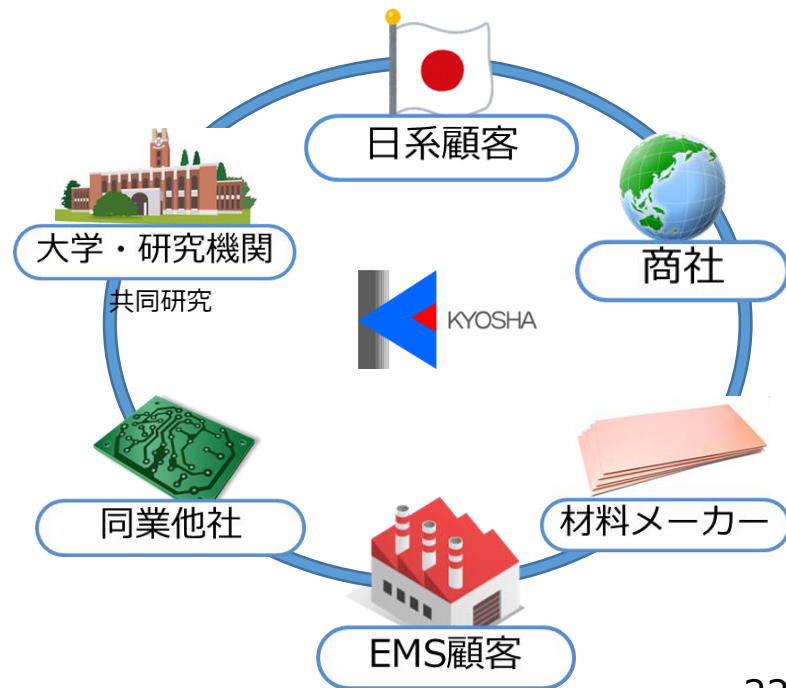
- ・同業他社との連携によるベトナム両面板増産
- ・設計・試作会社との連携による受注拡大

### ③ 技術の共同開発

- ・産学連携による技術・ビジネス開発

目標

- ① 販路拡大・新市場開拓
- ② 提携シナジーによる事業拡大
- ③ 新製品開発（コア技術確立）



# トピックス(業務資本提携による事業拡大)

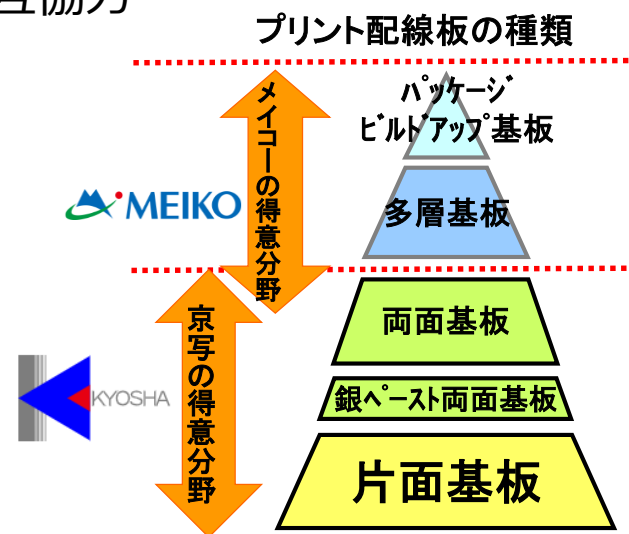
- 概要：当社は株式会社メイコー（ビルドアップ基板、多層基板メーカー）と2021年5月に資本業務提携契約を締結
- 提携理由：両社は得意とする製品が異なり棲み分けができており、ベトナムで事業拡大を進めるなどの共通点も多く、グローバルに生産販売で協力し、相互補完することで事業拡大を図る

## ■ 提携内容

### (1) 業務提携

- ① それぞれが得意とする基板分野での生産・販売の相互協力
- ② 設計・技術・生産・購買面での相互協力
- ③ 搬送用治具の生産・販売の相互協力
- ④ 実装・EMS事業での相互協力

### (2) 資本提携：1億円相当の株式を相互保有



# ③効率化戦略

主旨

自動化、IT化及びDX推進による生産性向上

市場動向

- ・デジタル技術の進展、コロナ禍によるビジネスモデルの抜本的変革
- ・コスト対応力の要求

重点施策

- ① **自動化、IT化による生産効率向上**
  - ・自動化による工数・ロスタイムの削減
  - ・新工法活用による生産量拡大
- ② **DX活用による業務効率化推進**
  - ・基幹システムによる見える化・効率化
  - ・DX推進による業務の見直し
- ③ **トヨタ生産方式の水平展開**
  - ・ムダの排除による小ロット対応の最適化
  - ・設計強化による付加価値提案(VE)

2026年3月期目標

営業利益	16億円
利益率	5.3%



京写ベトナムIT化



自動化(ロボット化)推進



# ④技術戦略

主旨

コア技術の深化によるニッチ・成長市場の開拓

市場動向

環境負荷低減、省エネルギーや小型化・高密度化ニーズの高まり

重点施策

## ①市場ニーズに基づく開発資源の集中

- ・プリントブル関連基板の事業化
- ・0603対応微細基板の技術提案

## ②超厚銅基板の技術確立

- ・厚銅エッチング技術確立、量産化

## ③付加価値のある印刷技術の追求

- ・大板印刷・Cuペースト印刷の技術確立

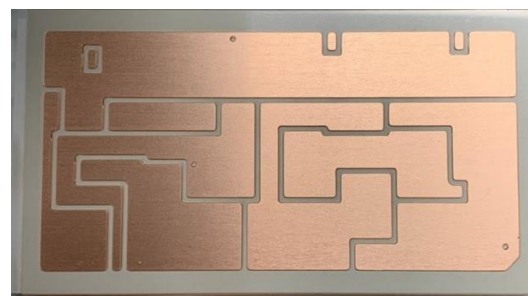
## ④生産技術を活用した新用途・新工法の開発

- ・自動機(ロボット)や工程革新のための研究開発
- ・治具の新用途開発

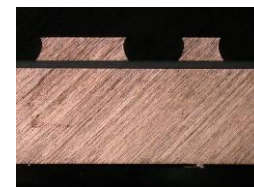
2026年3月期売上目標

環境対応商品

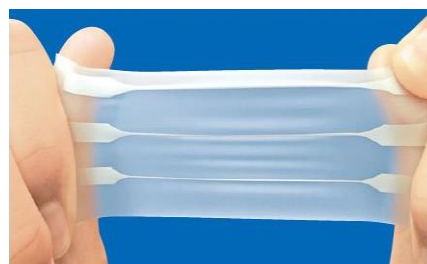
10億円



超厚銅基板(外観)



(断面)



プリントブル基板  
(ストレッチャブル基板)

# ⑤財務戦略

主旨

将来の成長実現に向けたキャッシュ・フロー経営

市場動向

米中貿易摩擦長期化、サプライチェーン分散化の加速によるASEAN(ベトナム)の成長、世界経済の回復見通し

重点施策

## ① 持続的成長に向けた集中と選択による投資

- ・将来の成長事業への優先投資と早期収益化による投資回収

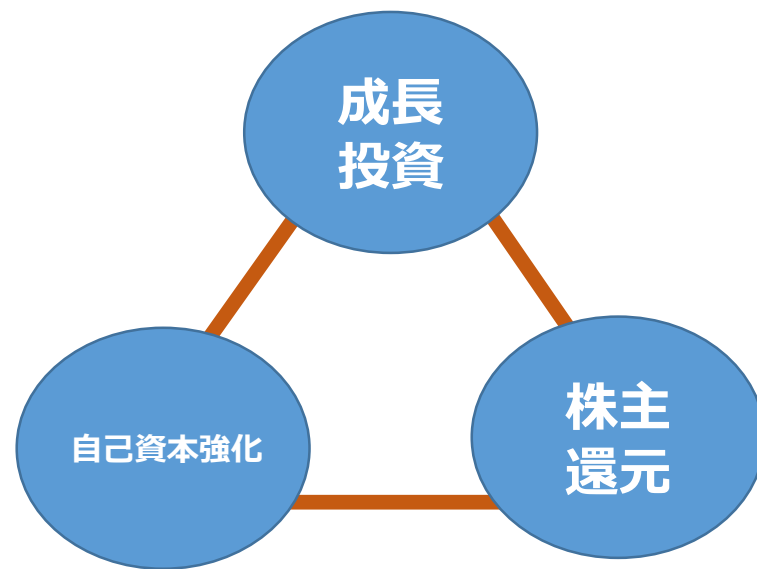
## ② 自己資本の強化

- ・収益力強化による自己資本の充実
- ・有利子負債の適正化
- ・生産リードタイム短縮、棚卸資産・売上債権の圧縮による資本効率化

## ③ 持続的・積極的な株主還元

### 2026年3月期目標

ROE	10%
配当性向	25%



# ⑥ 人財戦略

## 主旨

社員一人ひとりの能力開発と活躍による企業価値向上

## 市場動向

デジタル技術(DX)の進展加速、働き方の多様化、生活・仕事への価値観の変化、キャリア形成意識の向上、CSRに対する社会的要求の高まり

## 重点施策

### ① 社員満足度の向上

- ・働きやすい職場環境づくり
  - DX活用による働き方改革
- ・人事制度の見直し
  - 評価制度・業績連動型報酬

### ② 多様な人材能力の発揮

- ・グローバル人材、グローバル人材

### ③ マネジメント人材の育成

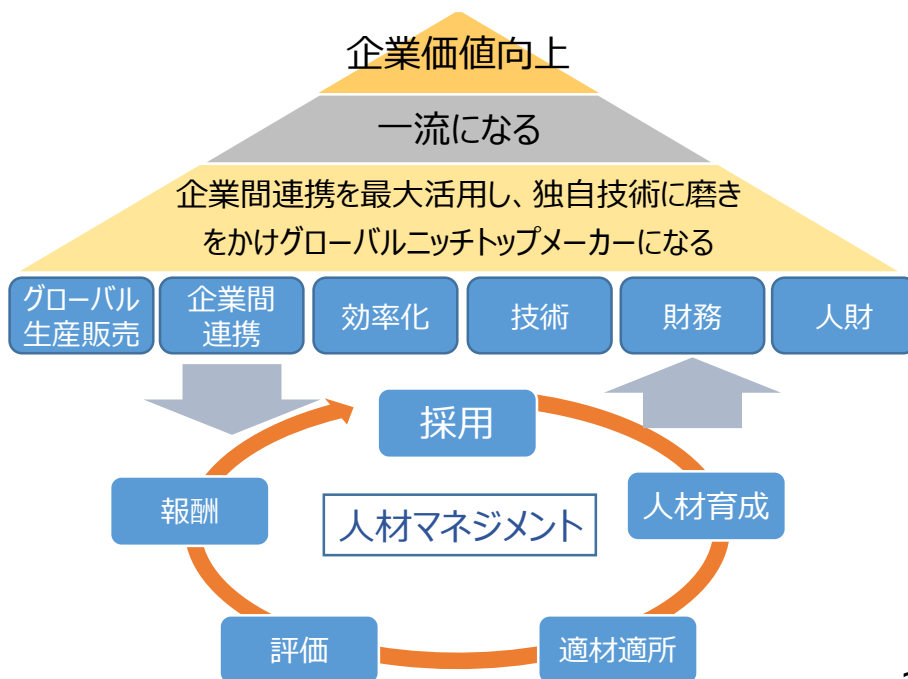
- ・後継者育成、マネジメント育成

### ④ 信頼と安全の体制づくり

- ・グループCSR体制の推進
  - ESG・SDGsの取組み
  - コーポレートガバナンス対応

## 目標

- ① 従業員が誇りに思える会社づくり
- ② スキルのレベルアップ
- ③ 高度な業務知識の向上
- ④ ESG課題の解決とコンプライアンスの徹底



# 中期経営目標

経営目標

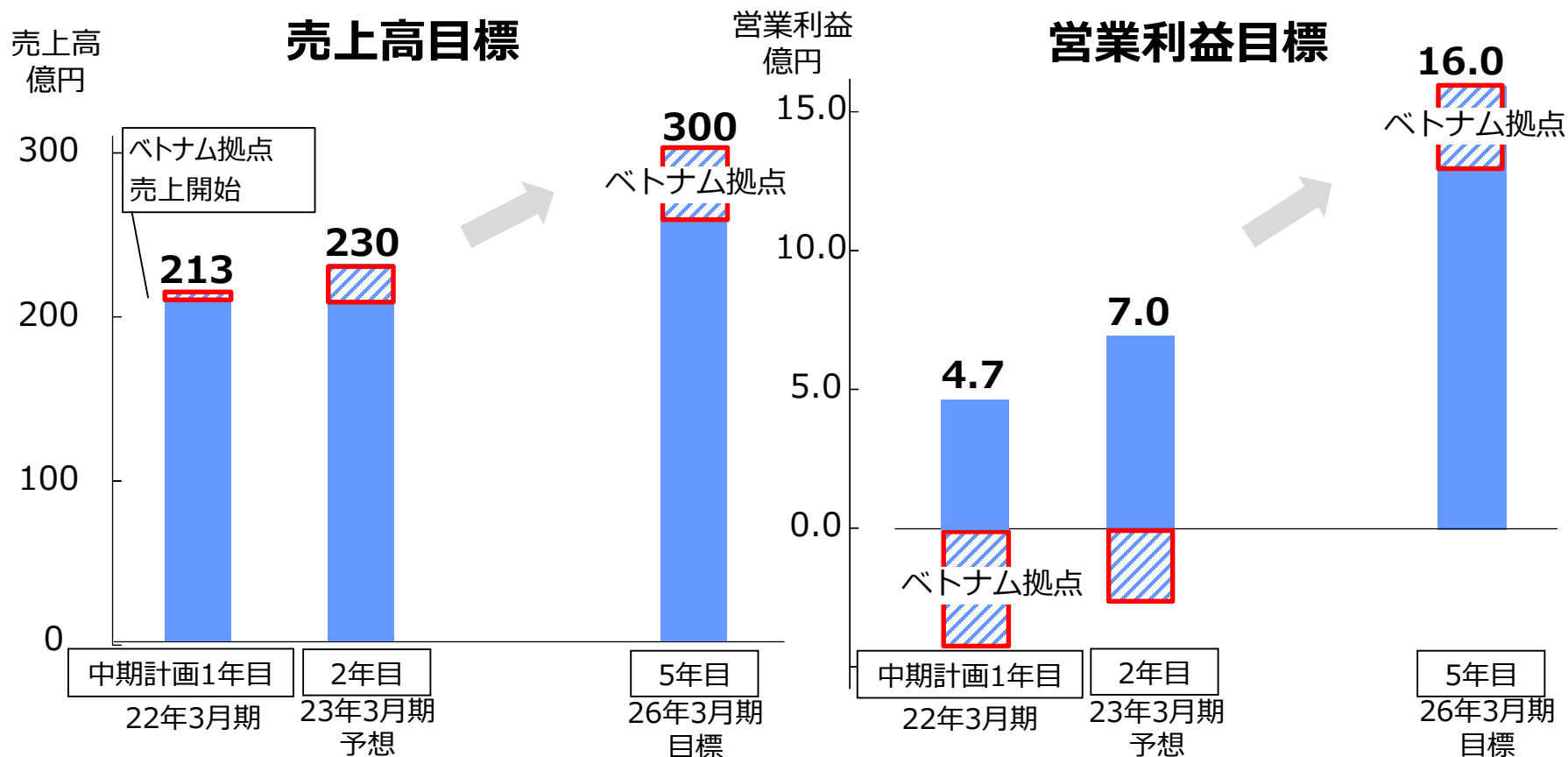
2026年3月期

売上高 300億円

営業利益 16億円

営業利益率 5.3%

ROE (自己資本利益率) 10%



今年度は下記7項目を重点課題として各戦略を推進する

## 2023年3月期 重点課題

- ベトナム工場の量産体制の構築
- 新規顧客、新製品開発の推進
- QCDS向上による競争力の強化
- DX活用による業務効率化推進
- ESG経営体制の構築
- 一人ひとりが能力を発揮できる職場環境づくり
- キャッシュ・フローの改善

A light gray world map is centered in the background of the slide.A decorative graphic consisting of a vertical black line and a horizontal black line intersecting at the center. The intersection is surrounded by four colored squares: blue (top-left), red (top-right), yellow (bottom-left), and yellow (bottom-right).









## IV. サステナビリティへの取組み

# サステナビリティ方針とESGに配慮した事業活動

## ■ サステナビリティ方針

京写グループは、経営理念、経営基本方針、行動規範に基づき事業活動を実践し、お客様、株主、投資家、従業員などすべてのステークホルダーとの信頼関係を構築することで、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

## ■ 事業活動によるESG、SDGsへの取組み

ESG	SDGsの目標	京写の取組み
E 環境	  ・水の利用効率の改善 ・地球温暖化防止(CO2削減) ・化学物質の使用量削減 ・廃棄物の削減 ・エネルギー効率の改善	・水,電気,インクの総使用量と原単位使用量削減 ・廃棄量の削減 ・自社開発の環境配慮型製品(ECOMAP)の市場浸透 ・環境対応、省エネ向け製品 シェアの拡大
		
S 社会	  ・適切な雇用創出 ・強靱なインフラの開発 ・製造業のサプライチェーンの強化とバリューチェーン拡大	・京写ベトナムによる両面板サプライチェーン体制の強化  ・多様な人材の育成と能力の発揮
	  ・質の高い教育の推進 ・ジェンダー平等、女性活躍推進 ・社会貢献活動	
G ガバナンス	 ・企業倫理の徹底と法令順守	・サステナブル体制の推進

# (参考) 株価推移及び株主還元



出所：Yahoo! ファイナンス

【10年チャート】



項目	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期予想
1株当たり当期純利益(円)	20.48	0.08	△ 9.46	20.18	25.12
1株当たり配当金(円)	8	4	0	5	6
配当性向	39.1%	—	—	24.8%	23.9%
配当利回り	2.3%	1.8%	—	1.5%	1.8%(※)

(※)23/3期予想「配当利回り」は22/3期の3/31終値を基に算定



この資料には株式会社京写の将来の計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信にもとづく見込みです。

また経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実性も十分に含んでいます。それゆえ実際の業績は当社の見込とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。